令和6年6月17日
危機管理部

女性防災コーディネーターの取組みについて

1 主旨

区は、多様性を認め合う視点を防災の取組みに反映させるため、女性防災コーディネーターの取組みを進めてきた。しかしながら、コロナ禍による活動休止や経年による環境変化等により、活動できる人員が減少・固定化していることから、同コーディネーターの2期生を養成するとともに、地域に向けて多様性に配慮した視点からの防災について理解促進を図る。

2 これまでの経緯等

(1) 経緯

年度	内容	説明
平成29	女性の視点部会	地域防災計画〔平成29年修正〕を実施する中で、男女共同参画の視点から防災の取組みに反映するため設置
平成30	女性防災リーダー育成検討委員会	女性防災リーダーの育成や男女共同参画の地域への啓発を目的として設置
平成30～令和元年	せたがや女性防災コーディネーター養成講座	検討委員会での検討を踏まえ、「多様性に配慮した視点からの防災対策」を習得したリーダーを養成するために実施

(2) せたがや女性防災コーディネーター養成講座

- ① 実施期間 平成30年11月～令和元年10月（計8回）
- ② 養成者数 38人（令和6年度現在34人）

(3) 地域啓発研修実績 全9回実施、参加人数合計506人

- ① 実施期間 令和元年12月7日～令和5年12月16日
- ② 対象 防災塾、青少年委員会、町会・自治会、中学生、等

3 今年度の取組み

(1) 女性防災コーディネーター2期生の養成

避難所運営における意思決定や地域の防災活動に参画し、多様性を認め合う視点からの問題提起や対策の提案等を行う女性防災コーディネーターの2期生を養成する。

< 概要（予定） >

- ① 要件
養成講座をすべて修了した方を女性防災コーディネーターとして区が認定する
- ② 対象
防災及び多様性を認め合う視点の啓発に関して意欲・関心を持つ女性

③ 養成講座の内容

- ア. 防災に関する基礎知識の習得
- イ. 世田谷区の地域特性、防災資源について
- ウ. 女性防災リーダーに必要な視点、知識の習得（被災地事例共有含む）
- エ. アサーティブネストレーニング（地域の町会・自治会、商店会や避難所運営組織等に入っていき際のノウハウ、留意すべき点など）
- オ. 避難所運営ゲーム（HUG）の実施

④ 養成者数

20人

⑤ スケジュール

令和6年10月から令和7年3月にかけて全5回

(2) 地域啓発研修の実施

地域住民や小・中学生、事業者等に向けて、女性防災コーディネーターを講師として避難所運営ゲーム（HUG）※を活用した研修を行い、地域住民の防災意識の醸成と多様性を認め合う視点の理解促進を図る。

※ 避難所運営ゲーム（HUG）とは

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

< 令和6年度実施見込み >

回数	日時	対象等	参加人数
1	令和6年5月12日（日） ※実施済み	梅丘災害を学ぶ会、防災に関心をもつ区民、及び昭和女子大学学生	19人
2	6月29日（土）	船橋小学校・千歳丘高校 避難所運営委員会	50人
3	7月以降（調整中）	奥沢中学校 3年生	48人
4	9月以降（調整中）	駒沢中学校 3年生	104人
5	9月以降（調整中）	太子堂中学校 3年生	58人
6	11月以降（調整中）	桜木中学校 2年生	104人

※ この他にも要望に応じて随時当該研修を実施する。

(3) フォローアップ研修

女性防災コーディネーターを対象として、地域での啓発活動を行う上で活用できるコミュニケーションスキルや防災知識の向上を図るための研修を実施する。

4 その他

- (1) 一連の取組みは、世田谷区立男女共同参画センター受託事業者であり、1期の女性防災コーディネーターの養成の際、区と協働して育成プログラムの開発や研修を行ってきた社会福祉法人共生会SHOWAに委託する。
- (2) 女性防災コーディネーターの養成者数及び地域啓発研修の受講者数については、次期実施計画の成果指標として位置づけ、取り組む。

(3) 若い世代へ防災意識を普及するため、「地域活性化事業」の一環である「地域交流ラボ」で活動する日本大学危機管理部と連携し、当校学生についても養成講座を受講のうえ、女性防災コーディネーターとして活動する予定である。

5 スケジュール

令和6年	7月	社会福祉法人共生会SHOWAに事業委託
	9月	女性防災コーディネーター2期生の募集
	10月から令和7年3月	女性防災コーディネーター養成講座
7年	3月	フォローアップ研修